

第2次八峰町総合振興計画基本目標

PART2 ～快適で安全な暮らしを支えるまちづくり～

平成28年3月に策定された「第2次八峰町総合振興計画」。同年4月から平成37年までの10年間を計画期間としており、6つの基本目標を実現することで町の将来像「白神の自然と人とで創るやすらぎのまち」を目指します。
6つの中から今回は「快適で安全な暮らしを支えるまちづくり」の主な施策を紹介します。

| 基本目標 | 施策 |
|--------------------|---|
| 快適で安全な暮らしを支えるまちづくり | (1)道路・交通体系の整備 (2)情報・通信ネットワークの整備・活用 (3)住環境の整備及び移住・定住対策 (4)上下水道等の整備 (5)環境衛生の充実 (6)消防・救急体制の充実 (7)防災体制の充実 (8)交通安全・防犯の推進 (9)雪対策の充実 |

- ### 6つの基本目標
- ①豊かな自然と共生するまちづくり
 - ②快適で安全な暮らしを支えるまちづくり
 - ③未来につながる活力ある産業づくり
 - ④安心して健やかに暮らせるやすらぎのまちづくり
 - ⑤彩り豊かな文化とふるさとをささえる人づくり
 - ⑥町民とつくるパートナーシップのまちづくり

(1)道路・交通体系の整備

基本方針

JR五能線の利便性の向上とバス路線の確保に努める。また、公共交通空白地有償運送の充実な運行を促進するとともに、交通弱者の移動手段の確保を図る。

超高齢社会の到来を見据えた、新たな地域交通システムの構築を検討する。

成果目標

● 新たな交通システムの構築
：新システム構想策定（H32）、新システム試験運行（H37）

具体的な施策

● 地域公共交通の確保と充実
：バス乗車券類購入助成など利用者負担の軽減による乗車率の向上に努める。公共交通空白地有償運送の充実な運行を促進するなど
● 新たな交通システムの構築
：超高齢社会に対応した新たな交通システムについて、調査、研究し、構想を策定。

(2)情報・通信ネットワークの整備・活用

基本方針

高度化し続ける情報・通信技術に対応できるように、通信環境や情報基盤の整備とともに、情報化に対応できる人材の育成に努める。

成果目標

● 公衆無線LAN（WiFiスポット）箇所数：13カ所（H27） ↓ 21カ所（H37）

具体的な施策

● 情報基盤の整備：主要公共施設、観光施設におけるWiFiスポット拡充を推進する
● 高度情報化に関する知識の普及：高齢者を対象に各地域でパソコン講座を開催するなど、学習機会の充実、情報の利用促進を図る。高度情報化について、生涯学習での取り組みを充実するなど
● 視聴環境の適正な整備：地上デジタル放送難視聴地域への対策・支援をするなど

(3)住環境の整備及び移住・定住対策

基本方針

若者及び子育て世帯を対象とした定住促進住宅を整備するとともに、利便性の向上と適正な維持管理に努める。また、空き家を活用した移住・定住促進賃貸住宅を積極的に整備する。

成果目標

● 若者・子育て支援住宅：0棟0世帯（H27） ↓ 3棟24世帯（H37）

具体的な施策

● 移住・定住対策：若者及び子育て支援住宅の整備を促進。



八峰町防災訓練 ～防災に対する心構えを～



5月26日は「県民防災の日」です。33年前の昭和58年5月26日、甚大な被害を及ぼした「日本海中部地震」を教訓に、町では消防署、消防団、地域住民が一体となって被害の軽減や防災意識の啓発のため、毎年防災訓練を行っています。今年も5月22日に特別養護老人ホーム海光苑で実施しました。
午前7時、日本海沖合でマグニチュード8.5の巨大地震が発生し、町で震度6弱を



観測したことを想定、防災無線により大津波警報を発令して避難を指示。施設利用者は、職員の手を借りるなどしてバスに乗り込み避難したほか、自力で歩ける方は高台を目指して避難しました。
また、火災を想定した訓練も実施。住民が消火器の使用方法を確認した後、職員が火事ぶれなど行ったほか消防団、消防署が放水訓練をしました。住民の皆さんも普段から防災の意識を高めましょう。



平成26年8月、ぶなっこランド手前で発生した土砂崩れ

全国で毎年平均1,000件以上発生している土砂災害。
いざという時のために、避難場所、避難経路を確認し、自分の身は自分で守りましょう。
〈ポイント〉
・日頃から住んでいる地域の危険度を把握する
・雨が降り出したらテレビなどの情報に注意
・夜間に大雨が予想されるときは暗くなる前に避難

土砂災害防止月間
6/1～30